令和 6 年度 **学校自己評価表（報告）**

学校運営計画											
学校運営方針	教育目標「豊かな人間性の育成をめざし、一人ひとりを生かす教育を推進する。」の達成に向けて (1) 教職員一丸となって生徒に関わる学校にする。 (2) 安全で安心できる教育環境の整備に努める。										
三つの方針(スクール・ポリシー)											
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。 ②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。 ③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。 ④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。										
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。 ②総合的な探究の時間では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。 ③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。 ④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。										
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①新たに高校生活を前向きに踏み出したい生徒 ②他人のことを親身に考える、思いやりのある生徒 ③社会に貢献する大人をめざす生徒										
昨年度の成果と課題	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度の重点目標</th> <th>具体的目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎学力の養成</td> <td>基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ態度を育成して主体的に生き抜く力を養成する。</td> </tr> <tr> <td>基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成</td> <td>社会で通用する礼節を身につけ、おもいやりと、人に関わる力を持った自立できる生徒を育成する。</td> </tr> <tr> <td>進路希望の実現</td> <td>生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒の進路希望の実現を果たす。</td> </tr> <tr> <td>開かれた学校づくりの推進</td> <td>地域と連携した教育の推進と、地域に信頼される学校づくりを行う。</td> </tr> </tbody> </table>	年度の重点目標	具体的目標	基礎学力の養成	基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ態度を育成して主体的に生き抜く力を養成する。	基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成	社会で通用する礼節を身につけ、おもいやりと、人に関わる力を持った自立できる生徒を育成する。	進路希望の実現	生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒の進路希望の実現を果たす。	開かれた学校づくりの推進	地域と連携した教育の推進と、地域に信頼される学校づくりを行う。
年度の重点目標	具体的目標										
基礎学力の養成	基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ態度を育成して主体的に生き抜く力を養成する。										
基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成	社会で通用する礼節を身につけ、おもいやりと、人に関わる力を持った自立できる生徒を育成する。										
進路希望の実現	生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒の進路希望の実現を果たす。										
開かれた学校づくりの推進	地域と連携した教育の推進と、地域に信頼される学校づくりを行う。										
授業でのICTが有効活用され、授業の工夫・改善が進んだ。また、個別の丁寧な進路指導の結果、就職をあきらめる生徒がなく、進学者も含めて、生徒の進路希望が十分に実現された。生徒指導については、早期の組織的な対応によって、いじめやその他生徒指導上の課題の深刻化を未然に防ぐことが出来た。											
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価								
基礎学力の養成	基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、	教科書を中心とした学習内容の定着を確認しながら授業を展開し、教科ごとの基本的な見方や考え方を体得させるとともに、放課後等に個別指導や補習等を展開する。	A								

	自ら学ぶ態度を育成して主体的に生き抜く力を養成する。	ICTの活用やその他の工夫をとおして、生徒が興味関心を持ち、主体的・協働的に学習に取り組めるよう授業の改善・実践に努める。	A	B	B
		学習評価を通じて学習指導の在り方を見直し、生徒が自己の特性や学習進度、興味関心、進路希望等に応じて学ぶことができるよう、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導、計画的な履修指導の充実を図る。	B		
		予習復習の徹底と家庭学習の習慣化を図るため、家庭で取り組む課題を設定し、基礎学力の定着と向上を目指す。	B		
		「総合的な探究の時間」等を通じて地域社会と自己との関わりの中から課題を見だし、自発的・協働的に課題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	A	A	
基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成	社会で通用する礼節を身につけ、おもいやりと、人に関わる力を持った自立できる生徒を育成する	教職員の同和教育・人権教育への意識を高めるために、教員対象の研修会を実施する。多くの教職員が各種同和教育研修会に参加し、研修内容を教職員および生徒に確実に還元する機会を設定する。	B	A	B
		生徒対象の人権教育・同和教育授業を実施し、生徒の人権意識を高める。	A		
		同和教育・人権教育における教職員の指導力向上のために、具体的な指導計画を策定、指導資料の充実を図る。	A		
		スクールカウンセラーの活用等、教育相談をより一層充実させ生徒を支援する。	A	A	
		研修の機会を活用し、特別支援教育への理解に努める。	A		
		各部と連携し、いじめアンケートを月1回実施し、「いじめ見逃し」を0にする。組織的な対応で対策に取り組み、集会やLHRで啓発活動をする。	B	B	
		頭髮指導等を活用し、基本的な生活習慣を確立するとともに規範意識を醸成する。	B	B	
		発達支持的な生徒指導を重視し、きまりを守る態度を育成するとともに問題行動を未然防止する。	B		
		カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立った指導をする。	A		
		集会やLHRをとおして新潟北高校の一員として自覚を促すとともに、事例をとおして問題行動に対する責任や自己実現等について指導する。	A	B	
		月1回「保健だより」を発行し、感染症等に関する情報の提供と予防策を周知するとともに、健康・安全についての情報を提供する。	B		
		健康に関する保健講話を各学年、年1回実施し、自他の心身の健康や、行動選択の自覚を促す。	A		
		地域の模範となる清掃活動等をとおして、全生徒・全教職員が地域から信頼される学校づくりに努める。	B	A	
		校内の美化のため、大清掃・通常清掃を徹底する。	A		
ゴミの分別の徹底化を図り、校内エコを積極的に推進する。	A				
生徒会やHR活動に積極的に参加できる環境を整え、登録生徒が継続して部活動に取り組めるよう指導を工夫し、教職員が一致協力する。	B	B			
体育祭や球技大会を通じて、クラスで力を合わせ、競技や応援に一生懸命取り組む姿勢を育む。	A				
進路希望の実現	生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒の進路希望を果たす	「生徒が進路決定をするための自己の能力、適性の認識及び開発に係ること」ならびに「生徒の興味・関心について」の研究を推進する。	A	A	A
		総合的な探究の時間、外部講師による講演、インターンシップ、体験的学習等をとおして、キャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識を向上させる。	A		
		時宜にかなった進路情報を、学年だよりをとおして生徒および保護者に提供する。	A		

		遅刻防止や基本的な生活習慣の確立を図りつつ、学習習慣及び基礎学力が定着するよう全校をあげて取り組む。	B		
		個人面談を年間とおして1人2回以上行い、生徒との信頼関係を築くとともに保護者と緊密に連携し、生徒の情報を共有する。	A		
		多様な進路希望に応じた資格試験、検定試験受験を推進し、多くの生徒が合格できるようにする。	A	A	
		進路希望に応じ模擬試験を1人あたり1、2年生は2回、3年生は3回以上受験させる。	B		
		各人の進路希望達成に向け、進路指導部、各学年や教科と連携するなど全校をあげて取り組み、面接指導を1人最低3回以上実施する。	A		
		各教科と連携して、進路希望に応じた小論文指導を実施する。	A		
開かれた学校づくりの推進	地域と連携した教育の推進と、地域に信頼される学校づくりを行う	県立幼稚園や県立大学等の異校種と積極的な交流を図るとともに、地域社会と連携した総合的な探究の時間の取組（北星プラン）を推進する。	B	B	
		総合的な探究の時間やボランティア活動への参加をとおして、地域社会に貢献する姿勢を身につけさせる。	A		
		PTA総会、学年PTA、PTA行事等の出席率を増加させる。	A	B	B
		公開授業ウィークの周知を徹底し、参加者を増加させる。	B		
		ホームページを積極的に活用し、各種便り等を随時に発行することによって指導方針等を広く発信し、本校の教育活動等を周知する。	B		
保護者との懇談を通じ、子どものために何ができるかを共に考えられる関係を築く。	B				
成果	<p>日々の授業、補習等で、生徒を粘り強く丁寧に指導することで、多くの生徒に基礎的・基本的な学力の定着と自ら学ぶ態度を育成することができた。また、来校者の多くから、生徒の挨拶について褒められることが多々あり、社会で通用する礼節を身につけた生徒の育成の成果がみられた。しかし、基本的な生活習慣が身につかず、遅刻・早退が多いなど、授業に取り組む姿勢や態度等に改善を要する生徒もいた。</p> <p>総合的な探究の時間における、地域の自治体、企業、福祉施設等と連携した活動や、外部講師による講演、インターンシップ等をとおしてキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識を向上させることができた。また、これらの活動をとおして、地域に信頼される学校づくりも進めることができた。他にも、学校周辺地域の清掃活動や東区主催イベントにボランティアとして参加するなど地域と連携した教育を推進した。</p> <p>進路指導においても、面接指導や小論文指導等を粘り強く丁寧に行い、就職希望者全員が内定し、進学希望者も全員が大学、専門学校等に合格することができた。また、各種検定試験においても、昨年度よりも多くの生徒が合格するなど、生徒個々の持っている長所・能力を最大限に伸ばした指導を行うことができた。</p>		総合評価		B